

院内感染防止対策を学習

全職員を対象に学習と手洗いチェック

千秋病院感染対策委員会



驚きと反省、手洗いの重要性を再認識

全職員対象の研修が五月七日からはじまりました。院内感染対策委員会メンバーが講師を務めますが、初日は製薬会社の担当者を講師に招き、「標準予防策概論と手洗い研修」と題し、院内感染防止対策についてわかりやすいスライドを用いて説明しました。

手袋を信用しすぎてはいけない事、公共トイレなどに設置されているハンドドライヤーは時として菌が増えてしまう事、擦式アルコールの消毒時間など、驚きと反省の連続でした。いかに手洗いが重要かを再確認したところで、「自分たちが行なっている手洗いはどうなのだろうか？」と実際に手洗いをしました。

洗い残しがあるかを確認するのに用いた装置はグリッターバグといい、まず汚れに見立てたクリームを塗ります。手洗いをした後ブラックライトを当てると、洗い残しがある部分のクリームが白く光ります。実際にやってみると一度できれいに洗えた人や、洗い残しがあり洗い直さなければならぬ人もいました。やはり爪の周りです。これからも意識して手洗いをこなしていきたいです。

老健ちあきデイケア 一年のとりくみ

老健デイケア 荒木美恵子

昨年四月に介護老人保健施設ちあきにデイケアが開設されてから、早いもので一年経ちました。この一年、老健デイケアの魅力あるものにするようとりくんできました。

①リハビリに特化したデイケア作り
「自分で出来ることは自分で、出来ないことをお手伝いする」を念頭に援助させていただきました。筋力、体力維持向上を目標し、利用者さん一人ひとりに合わせ、リハビリスタッフが自主トレメニューを作ります。積極的にこなっている方も多く、意欲や自主性がでてきているように思います。

②食事を楽しむになるメニューの改善
通所を続ける活力の一生かしたデイケア作り
小規模デイケアの良い所として、職員と利用者さんとの距離や、みなさん同士の距離が近いこと



自主性を大切にしています

が挙げられます。お互いに話やすく、みなさんも、出来なかった事が出来るようになる、一緒に喜び合うなど一体感も生まれてきています。

今後の課題として
リハビリの効果が出て「自立」と認定された方は、介護保険が使えず、サービスが利用できなくなってしまう。お住まいの地域に交流の場を探さなくてはなりません。外へ目を向けるような働きかけや、きっかけ作りが重要になってくると思います。デイケアでもそのようなきっかけ作りのお手伝い出来るようにしたいと思います。

口の中から貧困が見えてくる

歯科衛生士 森 美佐代

健康の関わりについて

格差や貧困と口腔内の健康の関わりについて

この冊子を置いてあります。診療の待ち時間でも読んでいただく



日常診療の中で、経費差を目的の当りにすることが増えてきたように思います。

歯科の治療は、もともと痛みを我慢仕切れなくて受診される方が大変多く、どのように食べ物を噛んで食べていたのかわかると不思議に思う患者さんもあります。

患者さんの事例を、ご紹介しましょう。

回数や費用を気にされる方が増えていきます。入れ歯の作成で、「一万円ぐらいです」

全部の歯を抜いて入れ歯にしたほうが、差し歯を入れるより安く、歯磨きもしなくてよく、歯ブラシも買わなくて良いのでは？と訴える患者さん。

両親が共働きで仕事に忙しい、受診するところができなかつた幼児は、体重がどんどん落ちてしまったそうです。原因は多数歯の虫歯による痛みで、噛むことができなかったためです。

診察にも来られない方々の現実をもっと深刻で、そうした方々は大勢いるのではないかと考えています。



これが「歯科酷書」

四月十七日、尾張健康友の会事業所利用委員会は、友の会北名古屋支部の五人のみなさんの参加を得て千秋病院、老健ちあき、老健デイケアの巡視をおこないました。

利用委員会は、毎月尾張健康友グループの各事業所に置かれている「苦情箱」をチェックし、各事業所の対応について意見を述べ、改善を図るようとりくんでいます。

年6回事業所巡視を実施

職員では気付きにくいこともズバリ

今回は北名古屋支部と共同で

事業所利用委員会

そのとりくみをさらに進め、友の会との共同のとりくみをするために共同で巡視をおこなったものです。巡視では、職員の目からは気付きにくい視点から、老健で一件、千秋病院で十八件の指摘と二件の質問がありました。終了後、千秋病院の朝井院長はじめ三人の管理者と懇談をおこない、すぐに改善できるものは早速手配しました。

巡視は、これからも友の会各支部の協力を得て隔月に実施します。